

床ずれ予防と福祉用具

(株)大平

福祉用具専門相談員 本村圭輔

日本の高齢化率は上昇の一途をたどっており、我が国の総人口は、平成27年10月1日現在、1億2,711万人で、総人口に占める65歳以上人口の割合、(高齢化率)は、26.7%と過去最高を記録している。

在宅で介護または、介護予防サービスを受けた人は、約390万人、施設でサービスを受けた人は、約91万人である。中でも、要介護度の高い寝たきり患者の床ずれ予防が重要な課題である。

「床ずれ」は「褥瘡(じょくそう)」とも呼ばれ、身体の一部が圧迫され続けることによって皮下組織の血流が悪くなり、酸素や栄養が行き渡らなくなる循環障害が生じて、皮膚や組織が壊死することを言う。寝たきりの人や神経まひなどの障害をもつ人が、自分で身体を動かさずに長時間同じ姿勢で寝ていることで発症するケースが多く、高齢化が進む近年において特に問題視されている疾患の一つである。

床ずれの危険因子の一つである寝たきりは、脳血管疾患の後遺症によるものや認知症、高齢による衰弱・老衰、関節疾患など様々な原因によって、誰にでも起こる可能性がある。

「床ずれ予防の3本柱は、除圧・スキンケア・栄養管理です。」皮膚状態の悪化と低栄養皮膚の状態が悪化してしまうのも原因の一つである。皮膚の表面を覆う皮脂膜は、皮膚の中にある水分の蒸発を防ぐうえに、外部からの刺激を防ぐ働きがあるが、高齢者は、その機能が衰えてしまうため刺激に弱く、小さな応力で床ずれが発生することがある。また、栄養状態の悪化も床ずれの発生と密接な関係がある。栄養状態が悪化すると、足りない栄養素を筋肉や脂肪組織から分解して賄おうとするため、筋肉や脂肪組織が減少し、骨が突出して床ずれ発生の危険性が高くなる。さらに、浮腫(むくみ)や血行が悪くなる原因にもなり、床ずれの危険性をさらに高めるので注意が必要である。